



平成29年(2017年)1月発行

発行者 鎌倉市 経営企画部 経営企画課 公共施設再編推進担当

電 話 0467-23-3000(内線2565)

U R L <http://www.city.kamakura.kanagawa.jp/keiki/facility.html>



鎌倉市と本庁舎の未来にむけた

市民の想い

鎌倉市本庁舎整備方針市民対話

はじめに

この冊子は、鎌倉市本庁舎整備方針の検討のために行った市民同士の対話の中でまとめられたメッセージ集です。代表として集まった16名の市民(高校生～70歳代)が半年にわたって継続的に活動し、その過程でさらに多くの市民の声を丁寧に集めながら、取りまとめてきました。この「市民の想い」は、この先50年、100年のための鎌倉市の本庁舎という施設(ハードウェア)の整備方針を策定するための材料となるよう編さんしています。しかしながらこの内容は、未来の行政のあり方(サービスや役割、機能、働き方)、つまりソフトウェアに関するものも多く含んでいます。また、「本庁舎」という概念を一旦取り払って、JR鎌倉駅西口の御成にある、現在の本庁舎がある空間がどのように使われるとどんなことが起こりうるのか、など利用者目線から踏み込んだアイデア出しもしています。

目次



1. 本庁舎、こんな風に見えてます	04
2. 市民が求める本庁舎の姿とは？	14
3. 現在の本庁舎の場所のあるべき使われ方とは？	26
おわりに	36
コラム.「うらかま」市民とゲストのための場として進化する、 御成のポテンシャル	38
付.『本庁舎整備方針市民対話』について	39
編集後記	40

本庁舎、
こんな風に見えています

鎌倉市政を長く支えてきた本庁舎。
市民には、どのように見えているのでしょうか。
本庁舎への印象を、様々な市民の方々に
率直に語っていただきました。

せっかく来たのに、どこ行こう？

場所がいいのよね、場所は。

いざ鎌倉？

ごちゃっと暗い。

せ
っ
か
く
来
た
の
に
ど
こ
行
こ
う
？

「普段の私には関係ない場所。」本庁舎への市民の印象として、もっとも多く語られたこと。たまの訪問時は「手続きなら行き先は分かる。だけど、何かに困って来た時は、どこへ行けばいいのやら。居場所もないねえ。」と感じるよう。本庁舎に馴染みのない市民にとっては、「取っ付きづらい、ちょっと冷たい」という印象があるようです。



場所はいいのよね、場所は。



鎌倉の中心にあって、アクセスが良い。落ち着いた周辺の景観に溶け込み、歴史も感じられる。情報発信にも、事業にも、市民の集まりにも、観光にだって使える中心地。多くの市民は、その場所の良さに魅力を感じています。でも、いや、だからこそ、「もったいない」とも感じてしまうのです。「市民にも観光客にも鎌倉の顔になる一等地の潜在力。庁舎機能だけじゃ、活かしきれてないんじゃない?」

いざ鎌倉？

地震や津波、いつ来るか分からない「いざ」が来た時。頼れる司令塔になれますか？多くの市民は、本庁舎にそんな不安を感じています。津波の想定浸水範囲に建ち、建物の老朽化も進む本庁舎。自然災害が身近になってしまった現代だからこそ、いざという時を安心して任せたい。市民の切なる気持ちです。



ごちゃっと
暗い。



「窓口の人の対応はとてもいい。」利用している人は、職員の対応を評価しています。それなのに、本庁舎は「何となく暗い」。そんな印象は、建物の外観・内観だけでなく、「取っ付きづらさ」とも関連しています。一方で、「ごちゃごちゃした感じ」「雑然としてる」という声もよく聞かれました。職務空間も狭そうに見えて、なかには「あそこで働く職員はちょっとお気の毒」という声も。

2

市民が求める 本庁舎の姿とは？

未来の本庁舎について、
市民が求めていることを伺ってみると、
おおよそ以下の5項目にまとめることができました。

【 災害発生時でも「機能」する本庁舎 】

【 手続きの場から相談の場へ 】

【 ワクワクする鎌倉 】

【 行政サービスの質を左右する働きがい 】

【 この先50年、100年耐えうる柔軟性を 】

【 災害発生時でも「機能」する 本庁舎 】



阪神、中越、東日本、熊本…。地震等の災害から逃げられない国だからこそその備えが必要であると、市民は願っています。その備えの一つが、災害発生時に対策本部／司令塔となる本庁舎です。その庁舎は災害の影響が軽微な場所でなければ、実際には機能しないおそれがあります。また、近隣にはヘリポートや支援者が滞在するベースキャンプなどを設置できる広い空間があると、さらに有効です。

【 手続きの場から 相談の場へ 】



未来の本庁舎の主要な役割は、「相談の場」であるべきと、市民は感じています。今の本庁舎はどちらかというと、「手続きの場」。つまり、どこで何をすれば自分の目的が達成するかわかっている市民には良いのですが、それが不明確な市民にとっては、敷居が高い。困った時の駆け込み寺のような、市民の生活状況に寄り添った支援が提供される、立ち寄る意義のある場であって欲しいのです。たとえば、健康増進、介護、医療、障害者支援、高齢者福祉などの「暮らし支援」に関する総合窓口があるとよいでしょう。また、そのような悩みを抱えた市民が来訪したくなるような「居心地」が、本庁舎の場には求められます。

【 ワクワクする鎌倉 】



市民や来訪者が集まって楽しい、ワクワクする場所ができれば、そこから新しい文化がはぐくまれます。市民はそのような場を求めています。それは、行政機能の集約する「本庁舎」とは別の、サービス性の高い「プラザ」と呼ぶべきものかもしれません。人々が集う場所には、気軽に集まりたくなるような仕掛けが求められます。緑や自然と調和していて、歴史ある鎌倉の象徴、おもてなしを感じさせてくれるような、そんな場所を市民はイメージしています。

【行政サービスの質を左右する 働きがい】



職員にとっても明るい職場であるべき。本庁舎について、市民はそう感じています。その理由は、現在の本庁舎のごちゃっと暗い職場への同情心だけではなく、職員の職場環境や働きがいそのものが、行政サービスの質に影響する、と感じるからなのです。長期的な効率性、合理性を追求し、デジタル化やペーパーレス化などを推し進めることで、業務や空間のスリム化が可能になり、職員の仕事への意欲向上につながり、その結果、行政サービスに還元されると市民は冷静に見ています。

【この先50年、100年耐えうる
柔軟性を】



未来を見据えたハードウェア設計。この先の50年、100年。現在では到底予測のできないような社会の変化があるかもしれません。行政の役割や区分の変更、市民から求められる機能の変化など、要因はさまざまです。これからの建物にはこのような変化を見据え、用途の柔軟性を想定した設計が求められると市民は考えています。

3

現在の本庁舎の場所の
あるべき使われ方とは？

現在の本庁舎のある場所は、鎌倉の中心にありながら、
周辺の景観に溶け込んだ佇まいを残します。
その潜在力を発揮するには、
どのような場になってほしいのでしょうか。

ぶらりと立ち寄る

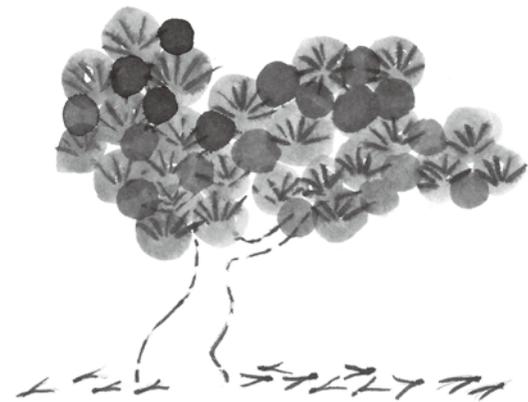
学ぶ。大人も子どもも

鎌倉ツウを招き入れる

もしもの時に役立つ

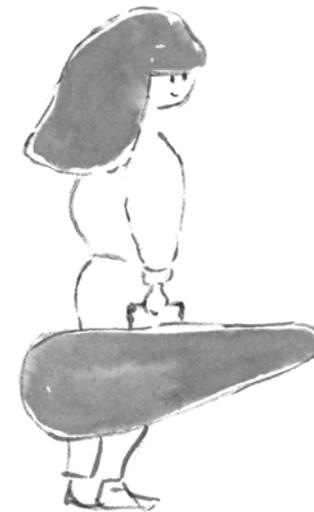
ぶらりと立ち寄る

便利で、歴史を感じられて、周囲の緑とも調和する。この場所はまず、市民が集える場であってほしい。大きな広場、周りにはちょっと休めるカフェと木陰にたくさんのベンチ。落ち着いた雰囲気を活かし、気軽にぶらりと立ち寄れる、市民にとって居心地の良い空間に。



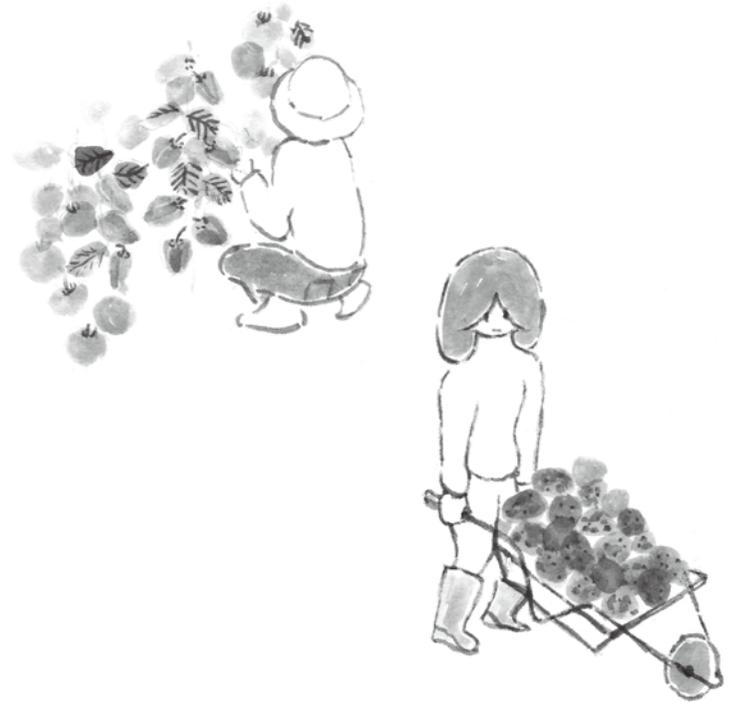
学ぶ。
大人も子どもも

御成小学校やその講堂もあり、本庁舎を含むこの一角は、学び舎の薫りがただよう、文化的・学術的な空間。この場所を、子どもからおとなまでオープンに使える学びの場にしよう。博物館、映画館、集会所などの場所(ハード)と、多様な学びの活動(ソフト)を埋め込んで、市民の日常的な学びの場にしよう。



鎌倉ツウを招き入れる

市民の集いの場としての顔を持つこの場所は、鎌倉ツウの観光客のための場所でもある。ただ「見る」よりも、鎌倉に留まる、暮らすことを体感し、生活者と訪問者の接点となるような場。たとえば、鎌倉の「食」を食べるだけでなく、つくるところから体験してもらおう。



もしもの時に役立つ

いつ、どんな災害がくるかわからない現代。もしもの時には、頼りになる場所でなければいけない。周辺の住民はもちろん、訪れている観光客が、一時的に避難できる場所。鎌倉に詳しくなくても、直感的に避難できるように。大切なのは「その場にいる人が速やかに避難できる場所」を提供できること。



おわりに

未来の本庁舎のあり方 「平時と有事の役割」



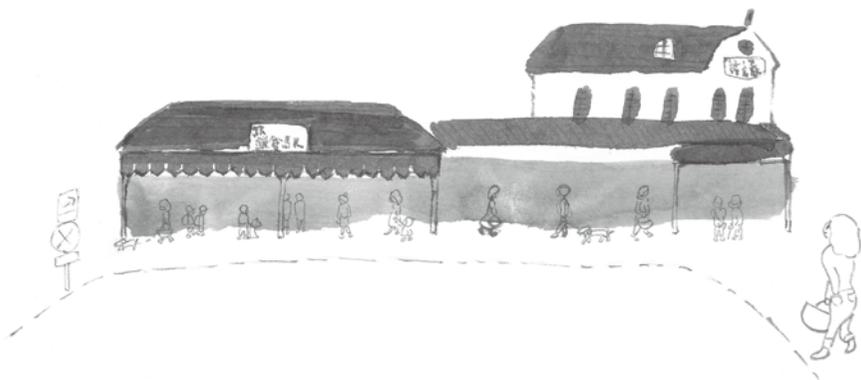
災害が発生した際に本庁舎が司令塔としての機能を発揮できるかどうかは、市民にとって重要な要件です。津波に飲み込まれた庁舎、地震で倒壊して人や車が近づけない庁舎、洪水で床上浸水した庁舎など、さまざまな被災地の庁舎の映像は市民の目に焼きついています。

一方、平時の本庁舎の役割も進化が求められています。「手続き」はより身近に、コンビニ等へ移っていく中、本庁舎では、問題を抱えているけれども、どうしていいかわからない市民へのサポートがますます求められていきます。また、そのような大きな不安を抱えている市民が、安心して居られる雰囲気づくりも大切です。職場環境の改善も、すべてよりよい行政サービスを得るための条件として考えています。

コラム

「うらかま」市民とゲストのための場として進化する、御成のポテンシャル

鎌倉の住人ならよく知っている「裏駅」というキーワード。表側とされる東口に対して、鎌倉駅西口は裏側。この言葉には「市民が使う駅」というニュアンスが込められています。この「ローカル」な響きは若者にとって非常に新鮮で、好感をもてるのだそうです。「裏駅」は馴染みがあるけど、鎌倉を知らない人にとっては意味がわからない。それならば「うらかま」と名付けよう。「うらかま」はこの鎌倉に新しい文化をはぐんでくれるかもしれません。市民や来訪者が集い、学び、遊び、交流を深める場所。この場所が持つ高いポテンシャルの活用性についても市民は大きな関心を持っています。



付. 『本庁舎整備方針市民対話』について

鎌倉市は平成27年3月に策定した鎌倉市公共施設再編計画に基づき、本庁舎の整備方針策定の作業を進めています。この方針策定にあたり、鎌倉市は市民の方々の視点や感覚を最大限に取り入れるために、以下のように、5回にわたって、市民対話を進めてきました。本冊子「市民の想い」は、この市民対話活動の成果としてまとめたものです。

- 第1回(6/11・土) 本庁舎整備方針に関する基礎情報の共有、現在の本庁舎の見学
- 第2回(9/3・土) 本庁舎のあり方を考えるうえでの「大切な視点」を定める
- 第3回(10/10・月) 【協働・拡張ワークショップ】「大切な視点」ごとに市民の意見を広く収集し、整理する
- 第4回(10/30・日) これまでの意見を「市民の想い」として編集する
- 第5回(12/4・日) 「市民の想い」を推敲し、最終案として整理する

編集後記

市民対話グループのメンバーから編集後記として、コメント「鎌倉のこれからの50年に向けて、大切にしたいこと」をいただきました。

これからは私達も協力して今以上に活気の溢れる鎌倉市にしていきたいです。

”住みやすい”だけでなく神奈川県の中核となる市を目指したい

何百年も前からの歴史を大切にしつつ、鎌倉に住む人、来る人に、暖かく夢を持てる街に！

古都鎌倉を意識した景観！

小林 倫子

田中 杏樹

宮村 玲子

市毛 菜々子



小出 芽生

花俣 和男

小鳥 朋樹

より良い鎌倉を作るために、今、高校生である自分ができる事を考える。

いつまでも創造的な人達の鎌倉に、潮風と緑の香りに歴史の音を感じたい

世界に届けよう！
未来に伝えよう！
鎌倉

鎌倉ならではの景観を守ること
歴史や伝統を大切にしつつ、新しいものを上手く取り入れる
地元民と観光客が快適に過ごせる街作り
高齢者と子どもが過ごしやすい街作り

本庁舎は鎌倉の中心にありこれから先も、行政と市民活動の中心としての役割を担います。是非、次の世代にも繋がる、素晴らしいものにして頂きたいと思います。

今回の経験を無駄にせず、これからも必要と感じたらば市政に関わり自分の意見を発信したい！

鎌田 きぬえ

岩田 博

箕浦 量太郎



陳 冠如

菊池 萌華

杉森 優

大切にしたいのは私が鎌倉で学んだこと：自然を敬い、人を思いやり、物を大事にすることあと…鎌倉彫！

歴史的な建造物や行事、現在の景観を残し、歴史と共に暮らせる街であり続けること

いまでも昔も変わらない鎌倉と、未来へ向けて進化する鎌倉が私の故郷

市民の思い

協力してくださった皆さま

[鎌倉市本庁舎整備方針市民対話グループ]

市毛 菜々子 小出 芽生 陳 冠如
岩田 博 小林 倫子 花俣 和男
小鳥 朋樹 柴田 箕浦 量太郎
鎌田 きぬえ 杉森 優 宮村 玲子
菊池 萌華 田中 杏樹

[協働・拡張ワークショップに参加いただいた市民の皆さま]

[神奈川県立鎌倉高等学校]

[神奈川県立深沢高等学校]

[鎌倉女子大学]

[鎌倉女子大学高等部]

[神奈川大学工学部建築学科山家研究室]

(順不同・敬称略)
